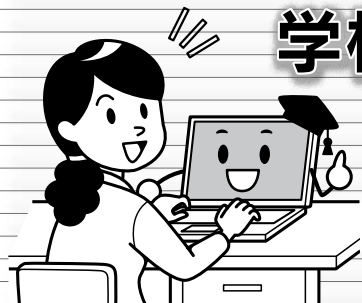


新連載

先生のための

## 学校情報リテラシー入門



第1回

大人に求められる  
情報リテラシー

山形大学基盤教育院 准教授 加納寛子

## ネットやケータイの指導時期

最近、タコイカウイルスの流行が騒がれました。動画や音楽ファイルに見せかけてダウンロードさせ、ウイルスに感染したパソコン内のファイルをタコ、イカ、ウニ、クラゲ、サザエ、アンコウ、ナマコなどの画像で次々に上書きしてしまうというウイルスです。27歳のこのウイルスの作成者は、大学院の学生時代にもウイルスを作成し、器物損壊容疑で逮捕された経歴の持ち主です。逮捕され無期停学になるという人生におけるダメージを受けても、再び犯罪に手を染めてしまいました。彼は、よほど特殊な人間だったのでしょうか。暇つぶしの落書きに見えるファイルを書き換えた画像の例(図1)を眺める限り、どこにでもいる若者が、遊びの延長のような感覚で犯罪を犯してしまったのではないかと推測します。

2chなどの書き込みを見ていると、自分の使っているパソコンのファイルが、イカやタコの画像に書き換わってしまっても、「おもしろい」などと、重大な被害を受けたと認識していない若者や子どももいたようです。

パソコンに苦手意識を持っている大人に

とって、ネット世界は、問題ばかり起こす不要な世界に思えるでしょう。一方、何の懐疑心も持たず、ネットやケータイ世界に魅了される子どもや若者にとって、もはやなくてはならない世界なのです。

小学校の授業などで、新しい単元に入るときに、導入課題をどうするか、いろいろな工夫をされていると思います。なぜなら、導入に失敗すると、その後の指導がうまくいかなることがしばしばあるからです。しかし、ネットやケータイ世界に魅了された子どもであれば、動機づけに頭を悩ませることなく、すでに興味・関心・意欲・態度が備わっているわけですから、この学習に適した時期を逃すことほど愚かなことはありません。

タコイカウイルスの容疑者は、プログラミングの訓練は受けてきたのですが、情報リテラシーを指導されることなく大学院生になり、逮捕されて処罰は受けても、教育は受けなかったために再度罪を犯したのでしょうか。つまり、大学院生になってからでは、残念ながら指導の時機を逸してしまっているといわざるを得ません。

情報リテラシーは、情報の読み書きですから、読み書きを学び始める適切な時期は、小



図1 ファイルを書き換えた画像の例  
([http://image.itmedia.co.jp/1/im/news/articles/0912/21/1\\_yuo\\_takoika\\_04.jpg](http://image.itmedia.co.jp/1/im/news/articles/0912/21/1_yuo_takoika_04.jpg)より引用)

学校の早い時期が一番適しています。

## イギリスではいつから指導している？

イギリスでは1988年まで、日本の学習指導要領に当たるような国定カリキュラムがありませんでした。各学校が、独自のカリキュラムを定め、学校ごとのポリシーで指導していました。しかし、それでは共通の学力をすべての子どもたちが身につけることができません。そこで、1988年にはじめて国定カリキュラムが制定されました。イギリスでは1988年ごろから、ちょうどインターネットやパソコンが普及し始めたころなので、「ICT (Information Communication Technology)」という科目名がつくられ、キーステージ1(5歳児～)から、情報リテラシーを学ぶことになりました。教科ICTの中で学ぶ学習内容例は、図2に示しました。

児童は、まず Finding things out、つまり、物事を見つけることを学びます。人や本、データベースやCD-ROM、ビデオ、テレビなどさまざまなところから情報を収集し(a)、さまざまな形式に情報を保存し(b)、保存した情報を検索する方法について学ぶことを通

して、必要な情報を見つける力を身につけていきます。

このほかにも多くの学習目標が記されていますが、パソコンやケータイの操作方法を学ぶことはまったく目標には掲げられていません。教科ICTでは、主に、どう情報を収集し、その情報を咀嚼し分析し、意思決定につなげていくかを、発達段階に応じて、5歳～16歳までの12年間毎年学ぶことになっています。イギリスの国定カリキュラムで学んだ第1期生、つまり、5歳の時から12年間学校でICTを学んだ世代はちょうど27歳になっています。

つまり、イギリスでは、5歳からICT教育を受けた世代が教壇に立ち始めているのです。しかし、日本には、5歳からICTを学ぶカリキュラムになっていないため、まだ1人もいません。どんな優秀なプログラマーであっても、人格の形成がなされる5歳～16歳ぐらいの子どものころに、体系的に「情報」について学んでいなければ、後づけの知識に過ぎず、デジタルネイティブとはいえません。

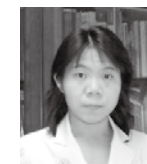
そこで、デジタルネイティブでない大人が身につけなければいけない情報リテラシーについて、6回にわたり連載いたします。

## Finding things out

1. Pupils should be taught how to:
  - a. gather information from a variety of sources [for example, people, books, databases, CD-ROMs, videos and TV]
  - b. enter and store information in a variety of forms [for example, storing information in a prepared database, saving work]
  - c. retrieve information that has been stored [for example, using a CD-ROM, loading saved work].



## ●執筆者紹介● 加納寛子 (かのうひろこ)



山形大学基盤教育院准教授。専門分野は教育工学、科学教育。情報リテラシー、情報モラルを研究。『即レス症候群の子どもたち ケータイ・ネット指導の進め方』(日本標準刊)等執筆。

図2 教科ICT学習目標例 キーステージ1(5歳児～)